

## NetApp の「2023 年クラウドの複雑性に関するレポート」で マルチクラウド環境におけるニーズの推移が浮き彫りに

主な調査結果で、技術部門のリーダーの 98%がクラウドの複雑化によって影響を受け、特にサイバーセキュリティとコスト最適化の問題が表面化していることが示される

グローバルなクラウド戦略で業界をリードする Data-Centric なソフトウェア企業、NetApp® (NASDAQ : NTAP) は、本日「2023 年クラウドの複雑性に関するレポート」を発表しました。これは、デジタル変革や AI への取り組みから生じるクラウドの要件やマルチクラウド環境の複雑性に対して、テクノロジー担当の意思決定者がどのように対応しているかを調べたグローバルな調査です。このレポートでは、IT 部門のシニア リーダーの 98%がクラウドの複雑化によって何らかの影響を受けており、複雑化が IT パフォーマンスの低下や、収益の損失、ビジネスの成長への障害につながっている可能性があることが明らかになりました。

「このグローバル調査レポートは、技術部門のリーダーがクラウド利用の取り組みをどのように捉え、管理方法においてどのようなパラダイム シフトが生じているかを明らかにするものです」と、NetApp のクラウド ストレージ担当シニア バイス プレジデント兼ゼネラル マネージャである Ronen Schwartz は述べています。「クラウドの導入が加速し、企業が競合を征するために革新を加速させる中、技術部門のリーダーは複数の優先事項を同時にこなすというプレッシャーの高まりに直面し、多くの人がこの新しい環境の効率性とセキュリティを管理する方法を見直しています」

また、NetApp の最高マーケティング責任者 (CMO) である Gabie Boko は次のように述べています。「当社のグローバル調査のデータは、現代の IT 環境がきわめて複雑であること、そして技術部門のエグゼクティブにはクラウドへの投資による成果を数字で示さなければならないというプレッシャーがあることを証明しています。NetApp は、オンプレミスやクラウドの環境で技術部門のエグゼクティブがイノベーションを加速し、コストを削減し、一貫性、柔軟性、即応性を高められるようにするためのアプローチを通じて、クラウドの複雑性を解消してきました」

このレポートの主な内容は以下のとおりです。

### **クラウドの複雑さが転機を迎えている**

データ管理の複雑さは、世界中の企業にとって許容できる限界に達しており、技術部門のエグゼクティブはビジネスへの影響を抑えなければならないというプレッシャーを感じています。しかし、技術的な課題や組織的な課題が企業のクラウド戦略を妨げる要因となっている可能性があり、回答者の 88%は複数のクラウド環境にまたがる作業を障壁として挙げ、32%は経営陣レベルで明確なビジョンを共有することすら苦勞しています。

日本では、データの複雑性をコントロールできない場合の懸念事項として、技術部門のエグゼクティブは、経営陣がクラウドに対して懐疑的な見方を強めていること（54%）と、ビジネス オペレーションを可視化できていないこと（52%）の 2 つを上位に挙げています。この 2 つの項目は、担当者がビジネス アプリケーションを十分に活用していないこと（49%）や、サイバーセキュリティ リスクの増大（41%）よりも高い割合を占めています。

### **経営陣はクラウドの成果がすぐに現れることを求めている**

持続可能性は予想外にクラウド化を後押ししている要因であり、技術部門のエグゼクティブの 10 人に 8 人ほどが、自社のクラウド戦略で ESG（環境、社会、ガバナンス）の成果を重視していると述べています。しかし、経営陣の間には投資回収率（ROI）への懸念があり、技術部門のエグゼクティブの 84%は、クラウド戦略がすでに組織全体で成果を示しているものと期待されていると回答しています。

日本でも同様に、技術部門のエグゼクティブの 10 人に 8 人が、組織全体ですでに ROI の成果が現れているものと期待しています。APAC 地域の中で、日本のエグゼクティブが持続可能性戦略においてクラウドを重要視している割合は 69%であり、シンガポール（72%）に次いで 2 番目に高い結果となりました。

### **技術部門のエグゼクティブは AI をクラウドの問題に対するソリューションと見なしている**

技術部門のエグゼクティブの 3 分の 1 以上（37%）が、今後 1 年間に自社のクラウド環境の半分以上が AI を活用したアプリケーションでサポートされるようになると回答しています。中小規模企業（従業員数 250 名未満）の技術部門のエグゼクティブの半数近くが、サポートされる環境は今後 1 年間で 50%に達し、2030 年には 63%に達すると予想していますが、大企業は後れを取っています。

APAC は、AI を活用したクラウド アプリケーションを今後 1 年間に導入する予定の地域として上位 3 つに数えられています。地域内では日本がトップを占めており、回答者の 73%が、2030 年までにクラウド環境の半分以上が AI 活用アプリケーションでサポートされると答えています。これは、AI を活用したアプリケーションの長期的な成長機会が日本にあることを示しています。

「NetApp のグローバル調査レポートでは、IT 部門以外のエグゼクティブと IT 部門のエグゼクティブの間で意思疎通が欠如していることが明らかになりました。特に、クラウド化の実現に取り組んでいるリーダーはコストと複雑性の問題に最も精通していますが、IT 部門以外のエグゼクティブはまだ十分に理解していません。クラウドへの移行プロセスにおいて、リーダーは課題を実感しているため、こうした現状の課題やまだ表面化していない課題にベンダーが対処する余地が残されています」と、Evaluator Group のシニア ストラテジスト兼アナリストである Randy Kerns 氏は述べています。「顧客がクラウドの実装に懸念を示す中、ベンダーにはプロセスを簡易化するソリューションを構築して提供するチャンスがあります」

「今日の日本のリーダーは、データ主権や持続可能性などの重要なビジネス成果をもたらす上でクラウドが重要であることを認識しています。こうしたリーダーの組織が直面しているクラウドの複雑性に対処することで、お客様はクラウドのメリットを最大限に引き出し、イノベーションを加速させて競争を征することができます」と、ネットアップ合同会社常務執行役員 CTO（技術支援 / ソリューション部門）の近藤正孝氏は述べています。「専門知識、能力、ハイパースケーラとのパートナーシップを独自に組み合わせることで、NetApp はコスト、リスク、効率、持続可能性を最適化し、お客様が希望するクラウドを望みの方法で利用できるようにしています」

企業のマルチクラウド環境への移行が進む中、NetApp は、IT リーダーが合理化された単一ユーザ インターフェイスでシステムを管理できるようにすることで、効率のボトルネック緩和を目指しています。NetApp は進化したクラウド アプローチを採用し、次世代のクラウド管理とストレージをリードしています。そして、前述の調査レポートで説明している主なトレンド（コストの最適化、リスクの評価、持続可能なオペレーションなど）を常に把握するために必要なツールを IT チームに提供しています。

詳しい情報と、レポート全文およびインフォグラフィックについては、[2023 年クラウドの複雑性に関するレポート](#)のページをご覧ください。

## 調査方法について

NetApp は Wakefield Research と協力し、米国、EMEA（フランス、ドイツ、スペイン、英国）、APAC（インド、日本、シンガポール、オーストラリア、ニュージーランド）の 9 市場において、企業の技術およびデータ担当の幹部 300 名を対象とした定量調査を 2022 年 11 月に実施しました。調査終了時、回答者全員が「部長クラス以上」に分類される役職に就き、IT、IT インフラ、クラウド インフラ、データエンジニアリングの各部門に勤務していました。

## NetApp について

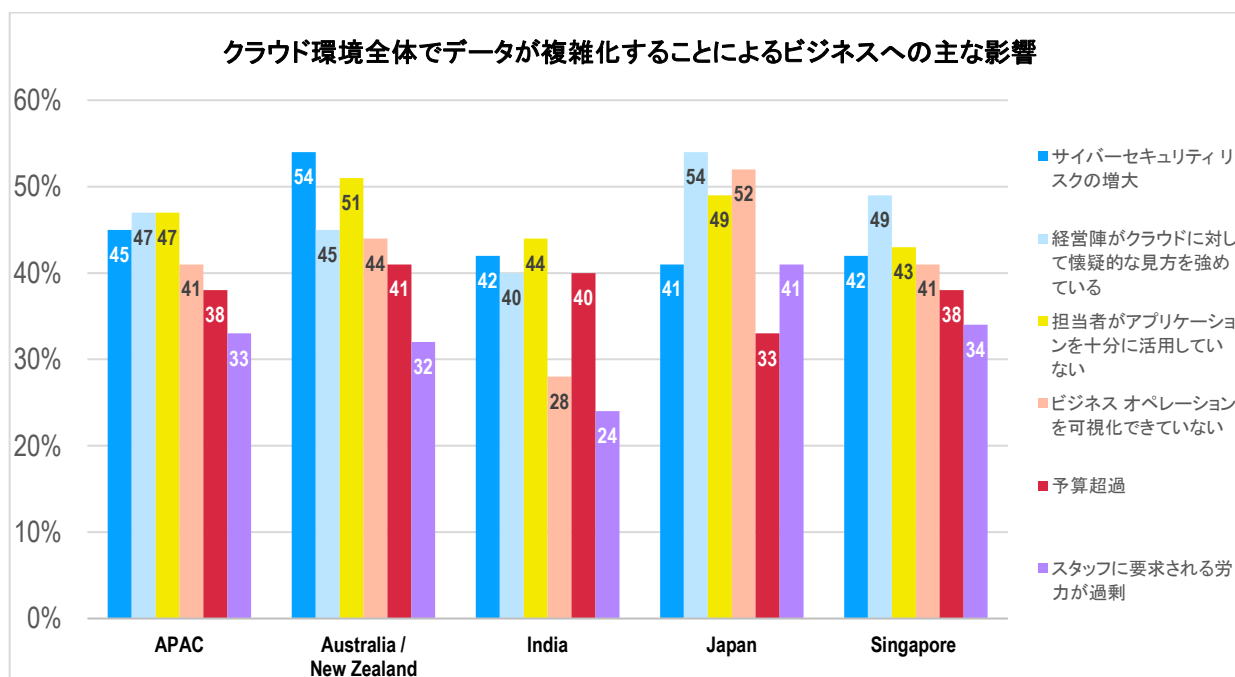
NetApp はグローバルなクラウド戦略で業界をリードする、Data-Centric なソフトウェア企業です。デジタル変革が加速する時代にデータを活用してリードする組織を支援します。クラウドでの開発、クラウドへの移行、オンプレミスでの独自のクラウドレベルのエクスペリエンス構築など、データセンターからクラウドまでのアプリケーションを最適な状態で実行できるシステム、ソフトウェア、クラウド サービスを提供しています。NetApp は、多様な環境にわたって機能するソリューションを通じて、組織が独自のデータ ファブリックを構築し、いつでもどこでも、必要なデータ、サービス、アプリケーションを適切なユーザにセキュアに提供できるようにしています。詳細については、[www.netapp.com](http://www.netapp.com) をご覧ください。また、Twitter、LinkedIn、Facebook、Instagram で NetApp をフォローしてください。

NetApp、NetApp のロゴ、<https://www.netapp.com/company/legal/trademarks/>に記載されているマークは、NetApp, Inc.の商標です。その他の会社名と製品名は、それを所有する各社の商標である場合があります。

## 付録 - アジア太平洋地域の統計とグラフ

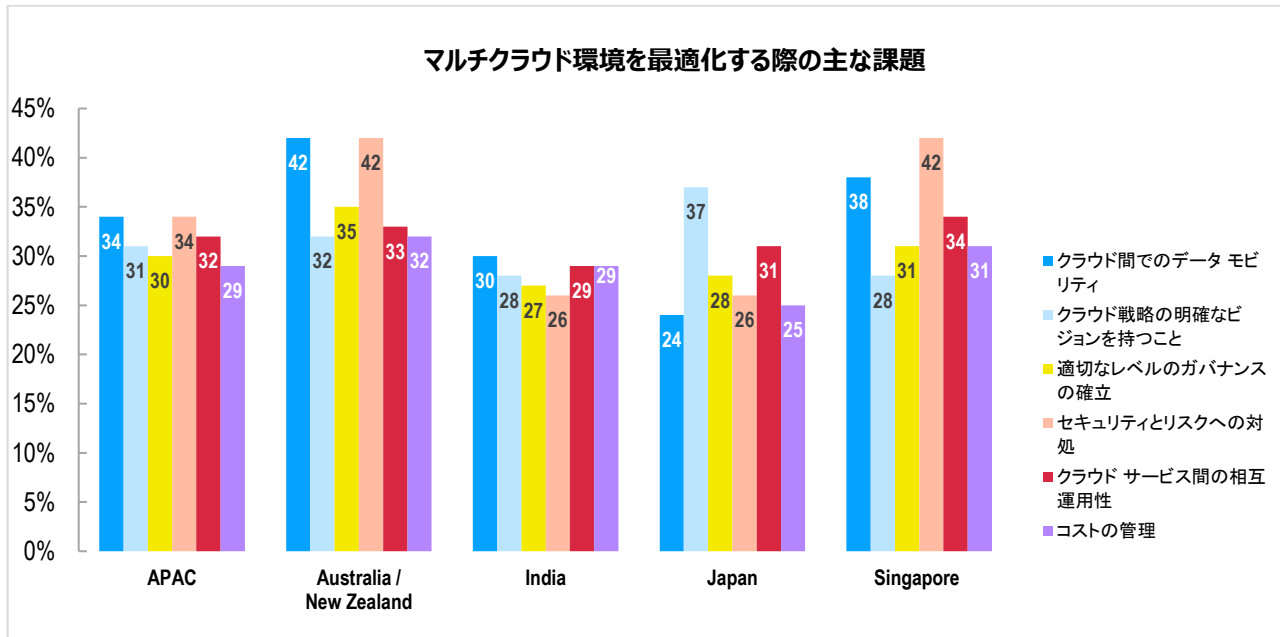
### 1. クラウドの複雑さが転機を迎えている

APAC では、クラウド環境全体でデータが複雑化すること起因して、経営陣がクラウドに対して懐疑的な見方を強めている（47%）、担当者がビジネス アプリケーションを十分に活用していない（47%）、サイバーセキュリティ リスクの増大（45%）、ビジネス オペレーションを可視化できていない（41%）などの主な影響がビジネスに現れています。



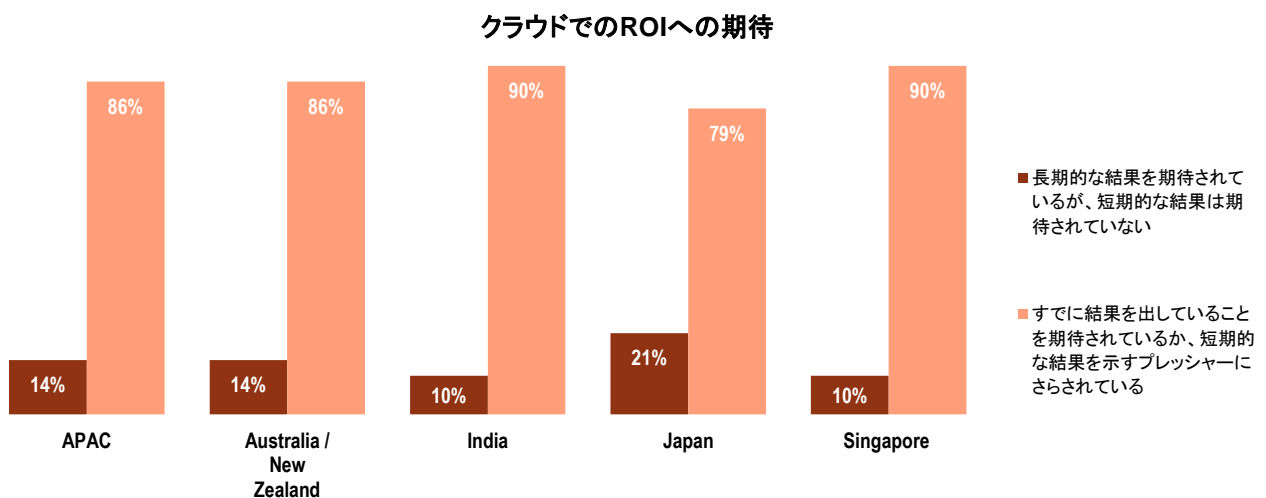
## 2. 技術的および組織的な障壁がクラウドの複雑さのジレンマを悪化させる

APAC では、オーストラリアとニュージーランドの技術部門のエグゼクティブが、「データ モビリティ」（42%）と「セキュリティとリスクへの対処」（42%）が最大の課題であると回答しています。「セキュリティとリスクへの対処」は、シンガポールでも最大の障壁として浮上しました（42%）。日本では、クラウド戦略のビジョンがないこと（37%）が最大の障壁として挙げられています。



## 3. 技術部門のエグゼクティブと経営陣の間でクラウドの ROI に関する緊張が高まっている

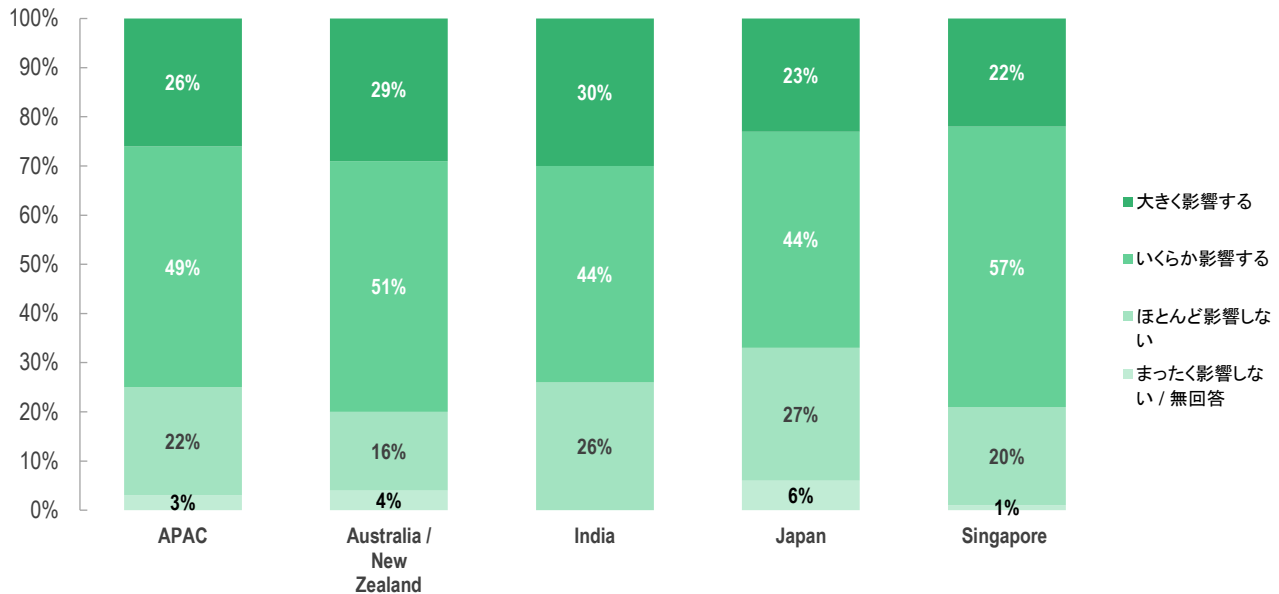
APAC では、収益の増加やコストの削減という観点からクラウドに費やした費用の ROI をすでに達成していることが期待されているか、または短期間で進捗を示すように追い込まれている技術部門のエグゼクティブが 86%に上ります。クラウドへの投資に対する ROI の実績を示すというプレッシャーは、インドとシンガポールで最も高く、技術部門のエグゼクティブの 10 人に 9 人がそれを感じています。



#### 4.クラウドをビジネスに不可欠な要素にしている主なポイント

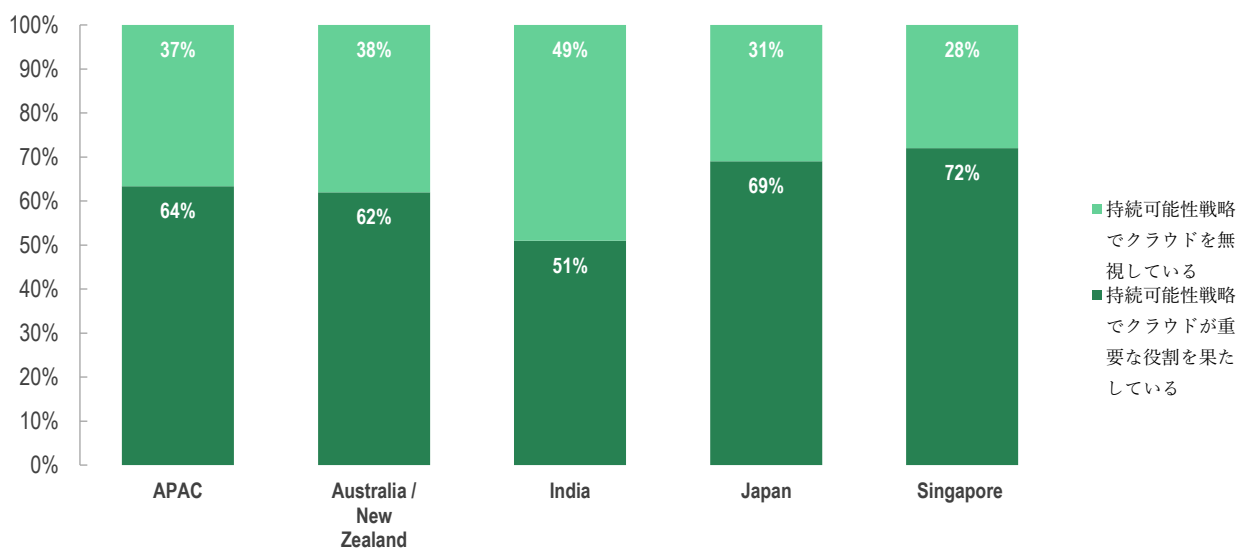
APAC の技術部門のエグゼクティブの 4 人に 3 人（75%）が、自社のマルチクラウド戦略はデータ主権の要件によって決まると回答しています。

マルチクラウド戦略の決定にデータ主権の要件が影響する度合い



APAC のエグゼクティブの 80%は、クラウド システムは持続可能性の目標を最優先に開発されていると回答しています。シンガポール（72%）と日本（69%）は、持続可能性戦略でクラウドを重視しています。

二酸化炭素排出量の削減にクラウドが果たす役割



## 5.技術部門のエグゼクティブは AI をクラウドの問題に対するソリューションと見なしている

APAC では、技術部門のエグゼクティブの 56%が、2030 年までに自社のクラウド環境の半分以上が AI を活用したアプリケーションでサポートされるようになるかと回答しています。これは、この地域で AI を活用したアプリケーションが長期的に成長する機会を提供します。

クラウド環境の半分以上がAIを活用したアプリケーションでサポートされると見込まれる時期

